



# 西新井 消防団だより

発行 令和7年11月 No.107W

編集・発行

西新井消防団 広報委員会

## 消防団が見せた現場力！！ 震度6 想定 of 訓練で光る団員の連携



倒壊家屋から要救助者を救出する場面



一斉放水を行う様子

9月28日、足立区内3消防団の合同点検が行われました。都内直下型地震・震度6を想定した訓練で、火災対応や救護活動など実践的な内容が実施されました。倒壊した家屋からの救出訓練、放水活動、応急救護まで、一連の動きを確認。団員たちは声を掛け合いながら、迅速かつ的確な動作で被災現場を再現しました。青空の下、緊張感に包まれた会場では、日頃の訓練成果と強い使命感が感じられ、地域の安全を支える消防団の頼もしさが際立つ一日となりました。

倒壊家屋から救出された要救助者を前に、団員たちは迅速に応急救護を開始。救護ボランティアと連携し、容体を確認しながらトリアージを実施しました。緊張感漂う現場で声を掛け合う団員の姿に、地域を守る強い使命感が感じられました。



要救助者を前に、応急救護やトリアージを行う緊迫の一場面



放水に向けてポンプ車を操作する様子

一斉放水では、火災発生を想定し、ポンプ車の操作やホースの接続を迅速かつ確実に行う実践的な訓練が行われました。現場では短い指示が飛び交い、息の合った連携で放水体制を整える姿が見られました。水圧や安全確認など、一つひとつの動作に緊張感が漂い、訓練とはいえ本番さながらの雰囲気になっていました。

災害時には一瞬の判断が被害を左右します。いざという時に迷わず行動できるよう、日ごろからの積み重ねを大切に、地域の安心と安全を守る力を磨いています。



# 西新井消防団

## 50年の歩みを胸に、晴れの記念撮影 青空の下、地域を守る決意を新たに



西新井消防団、50年の歩みを胸に晴れやかに整列

来年、西新井消防団は結成50周年を迎えます。節目の年を記念し、記念誌に掲載する集合写真の撮影が、合同点検当日に行われました。事前に予行練習で整列位置の確認を行い、本番は点検終了後に撮影を実施。

青空の下、整然と並んだ団員たちは、引き締まった表情でカメラに向かいました。その姿からは、地域を守り続けてきた誇りと、次の世代へ防災の志をつなぐ強い意志が感じられました。50年の歩みを刻む記念すべき一枚となりました。



合同点検前、集合写真の並びを入念に確認



### 初参加で感じた使命と学び

「想像以上に本格的な訓練で驚きました。実際の大規模災害時にも、自身が冷静に行動できるよう、訓練に一層励んでいきます。」

(3分団 小林 朗団員)

「消防隊や中学校消防隊、ボランティア救護など多くの人の協力で訓練が行われていることを実感しました。ドローンやミキサー車の活用など新しい発見も多く、災害時に落ち着いて行動できるよう今後も学びを重ねていきたいです。」

(3分団 七海 彩衣団員)



### 9名の救命指導員が誕生

西新井消防署にて救命指導員研修が6年ぶりに行われました。西新井消防署の救急隊員が2日間講師を勤め、救急現場での体験や、より実践的な処置を習得しました。

今後の救命講習で受講者の皆様にお伝えしていきます。



技能講習参加者による集合写真



応急処置の方法を学ぶ団員

### 祭りの裏で守る地域の安心



檣に大太鼓を設置する様子

第5分団では、年に一度開催される八幡神社のお祭りに合わせて、町会の消防団員への消防器具(スタンドパイプ)の操作指導を行い、見学者にも防災意識の啓蒙を図っています。

さらに、出店での火気使用の安全チェックや、檣への大太鼓の設置サポートなど、お祭りの裏方でも地域の安心・安全を支える活動をしています。



# 西新井消防団

## 水難応急訓練

6月22日、西伊興小学校のプールで水災対応訓練が行われました。胴長靴と救命胴衣を身につけ、救命ボートを使った曳航訓練などを実施。蒸し暑い中でも声を掛け合いながら取り組む姿に、地域を守る頼もしさが感じられました。近年の記録的豪雨に備え、日ごろの備えと連携の大切さを改めて確認する機会となりました。



救命ボートを運搬する様子

## 消防活動技能向上訓練

6月29日、技能向上訓練を実施しました。火災現場により早く到着し、初期消火に迅速に対応できるよう、今年度から新たに導入したホースバックを使用した消火訓練に取り組みました。参加者は動作を確認しながら真剣に訓練を重ね、操作の習熟を図りました。今後も訓練の精度を高め、地域の防災力と安全意識の向上に努めていきます。



ホースバックは一人でも運搬が可能



## 家族を守る行動計画

6月28日、都庁第二庁舎で「東京マイ・タイムライン」の講習会が開催されました。マイ・タイムラインは、一人ひとりが災害時の行動を事前に考え、家族と共有するための防災ツールです。参加した団員は、家族の安全を守るためには日ごろから話し合い、行動を確認し合うことが大切であると実感した、有意義な一日となりました。



いざという時に備える行動計画づくり「東京マイ・タイムライン」

## 消防救助機動部隊を視察



ハイパーレスキュー隊員たちとの集合写真

7月12日、「第六消防方面本部消防救助機動部隊」への視察研修が実施されました。参加した団員は、最新の救助資機材の機能や出動体制、日頃の訓練内容について職員の方から詳しい説明を受けました。現場での迅速かつ安全な活動を支える高度な技術や装備の重要性を学び、消防活動に対する理解と意識を一層深める貴重な機会となりました。

## 《就任異動》



第9分団長 清水 康弘  
(副分団長)

## 舎人防災フェスタで防災啓発活動を実施

10月25日、舎人公園で開催された「舎人防災フェスタ」において、防災啓発活動を行いました。会場では、消火器の操作方法や応急手当の体験指導、消防車両の展示などを通じて、来場者に災害時の初期対応や防火意識の重要性を伝えました。

子ども向けの防火服試着体験や記念撮影コーナーでは、たくさんの笑顔が見られました。消防団員と触れ合いながら、防災への関心を高める良い機会となりました。

また、心肺蘇生法やAEDの使用体験では、保護者や子どもたちが真剣に取り組み、いざという時の行動を学びました。

団員からは「こうしたイベントを通して、一人でも多くの方に防災への関心を持ってもらえたら嬉しい」との声も。

西新井消防団は今後も地域とともに災害に強いまちづくりを進めていきます。



消防団員の指導で心肺蘇生を体験



親子で防災体験、笑顔あふれる交流



消防車におすわりするワンちゃんが人気者に



## 地域に恩返し of 第二の人生 元プロ野球選手・河瀬雅英班長インタビュー

西新井消防団第9分団



消防団で活動する河瀬班長

### 消防団入団の経緯

「65歳で会社勤めが終わり、さあ～これから何をしようかとわくわくしていたところ、妻から一枚の新聞に折り込みチラシを渡されました。見てみると「消防団募集」のチラシでした。地元のことは何も知らず妻に任せっきりでしたので、いい機会だと思いました。私も地元役に立てたらいいなと思ったのと、会社では総務部で勤務をしており、毎年秋ごろに自衛消防隊の発表会に出場するため、社員の屋内消火栓操法や動力ポンプ操法などを指導しておりましたので応募いたしました。9分団に入団後は分団長並びに団員の皆様には、65歳という高齢にもかかわらず温かく迎えていただき感謝感激でした。9分団の第一印象は消防団としての熱意と地元愛を想像以上に強く感じ頼もしく感じました。4年間で火災現場に出動したのは2回あり、とても緊張しましたが9分団の方々の俊敏かつ冷静に対応されていてとても勉強になりました。これからもよろしくお願いいたします。」

### 野球に関して

「小学校5年生ごろから父（寿司屋）とキャッチボールをするようになり「巨人の星」のような毎日を送り、中学・高校と野球に一筋でした。高校野球部では控え投手でしたが、3年生最後の夏は大阪予選大会決勝まで勝ち進むも、PL学園に2対0で敗れ甲子園への夢は叶いませんでした。その後、大学野球部のセレクションなど受けている時、近鉄バファローズの捕手の方から知人を通じて入団テストを受けることになり、驚くことに合格に入団することになりました。1年目は練習生（今でいう育成選手）で2年目からは選手として契約していただき、3年目のオフに自由契約となりました。身体がまだ動けるので諦めきれず、日本ハムファイターズにテストを申し込み、受けさせて頂けることになり入団が決まりました。1年目に肩と膝を故障し2年目からは打撃投手として契約していただき3年目に選手契約していただけるよう頑張りましたが、5年間のプロ野球生活で公式戦には1試合も投げることなく任意引退となりました。今思い出すと若き日のいい思い出です。」

今年の5月からは、足立区立伊興中学校野球部の「部活指導員」（監督兼任）として活動しており、子供たちの目標達成に向けて自発性を促すコーチングを日々悩みがんでいます。」



近鉄バファローズ時代



日本ハムファイターズ時代



### 略歴

昭和32年(1957)	2月3日生まれ出身地：大阪
昭和50年3月	近鉄バファローズ入団
昭和52年12月	同団自由契約
昭和53年1月	日本ハムファイターズ入団
昭和54年12月	同団任意引退
昭和55年4月	凸版印刷入社
令和3年3月	同社退職
令和3年3月31日付	消防団入団

### 地域愛と情熱で“現役”続行中！

子供の時から大好きな野球に打ち込み、プロ野球を引退後も会社の野球部、さらに退職後の現在も中学校の野球部の指導と、野球に関わり貢献したいという熱意をずっと持ち続けている熱い人です。お勤めだった頃は忙しくてできなかった地域への貢献もしたいという思いで消防団に入ってくださいました。9分団は決して平均年齢の若い団ではないのですが、それでも河瀬さんは年齢としては大分上の方です。しかしやはりずっと身体を動かしてきた経験の賜物でしょうか、訓練や出動時の動きは機敏でさすが元プロという感じです。入団5年目ながら操法大会には選手として2度出場し1度は銅メダルも獲っています。消防団や中学の野球指導だけでなく、地域の和太鼓保存会など精力的に地域に根ざした活動もしてくださっています。



## 求む消防団員

西新井消防署 03-3853-0119

入団エントリーはQRコードから▶

